

この頃、あの頃

十文字高女附屬幼稚園 留岡よし子

この頃の子供はえらいですね、入園式の日にお返事の出来ない子なんてあの頃……十年前……から見たらまあ無いといつてもいゝ位ですもの、お附添にかじり付いてゐる子も減りましたね、そうく下駄箱や帽子掛の自分の名前は大概讀める様ですよ、始めて描く繪もどうやら形を成してゐますし、摺紙も相當正確に出来るのが多くなりました。一列勵行などいふ事は流石に眼に慣れてゐる故か中には體に覺えのある子もゐるらしく、あの頃から考へると世話がやけない様に思ひますね。そして又配給々々で締めさせられてゐる故か當がはれたもので満足して、ねだるといふ事も少くなつたのぢやないでせうか。とにかくこの頃の子供は取扱ひ易くなつたと思ひますよ、それはとりも直さず十年前に我が「皆さんかうなさいよ」と子供等に云ひ、「子供はかう扱つて下さい」と親に呼びかけた結果

が當時の子供にぞれ文結果として見られたかは別として十年後の今日、この頃の子供の上に見出せたを考へてもいゝのぢやないでせうか、でも何となく物足りない氣がするのですけれど……もう少しば一つとしてゐて扱けた所があつてもいゝ。コセくして神經を尖らしてさあ今度は何の注文だらうと待構えてゐる……といつた様な態度、可愛げがないともいへますし……もう少し明け放しにして力一杯叫んであはれてくれともいゝ、ねだられてもみない。繪にならぬ繪を繪にしてみたい。措めないものを措める様にしてみたい……もう少し世話をやかせてほしひ……生のまゝのものを自由に扱ひたい……こんな事を書き乍ら私はハツと思出しました。昨年、國民學校の先生から幼稚園から來た子は訓練されすぎてゐて困る、つと駄々をこねる子を、甘えてくれる子をよこしてほしひ……といはれて、私

はムキになつて抗議したものです。あなたに興味を満足させる爲に訓練し得るものをせずに送る事は出来ないと思ひましてね。私は今家庭に向つて同じ様な事をいひたいらしい自分を我乍らあきれてます。妙な感情ですね。どこが間違つてゐるのかしら、子供の中にひそんでゐる。「大いなるもの」「勝れたもの」が感じられない自分が至らないのでせうね、統一均等、配給……一率的なこの時代に、そこを亂さずにその上に出づるものを期待してゐるのですが、どうしたらいいのでせう。

この頃の家庭はよほど進歩しましたよ、必ずしも我々の呼び掛た結果許りとは思ひませんが、社會が教育したのでせう、あの頃は刷物を渡しても讀まないで一々開きに來る人が多く「よく讀んで下さい」と注意書した事もありましたつけ。費用を集める時は古封筒に金額と何費用といふ事を書き必ずつり錢なき様、組、姓名を忘れずに……といくらいつても五圓札十圓札を帶の間から出して申込の紙は忘れませんでした……といふ様なのが相當ありました。この頃は注文通りにして來ない人もないとはいへませんがま

あゝ、そうした點はちやんとして來る様になりました。やはり配給を貰ふにもいろいろ書込む必要に迫られて慣れて來たと見えますね。子供の事で話合つても一般によく打明けて相談し合ふといふ様になりまして、でも「御遠慮なくいけない所は仰つて下さい」といはれて遠慮なくいけない所、丈いつたのでは親御さんの氣持が穩でないらしいのはこの頃もあの頃も變りない親心の様ですね。

親御さんは忙しからう。こうしたら迷惑しないか、あゝしたら手が省けて喜ぶからと考へすぎる、のも親切の様でかへつてよくないらしいとこの頃になつて考へてます。

やはり我子の爲には忙しい中を都合したりあゝもかうも……と一苦勞も二苦勞もしたい親心を考へて適當に苦勞させて上げた方がいゝ様ですね、協力を求め接觸を多くすればする程我々への親しみ信頼を増して喜んで貰へるし、結果もいゝ様です。

この頃の保母さんとあの頃の保母さん……あの頃はたゞ子供が好きで保母さんになつた、たゞ何となく……といふ人が多か

つた様に思ひます。この頃は「幼児保育」の仕事を尊いと思つてやる方が多い様ですね。

熱心……といふ點は、個人的のものですが、社會が認め、信頼し責任を負はせるといふ傾向がこの頃の保母さんの保育者としての自覺を一層促す様です。確りしてきた一面「こゝからこゝまで私の仕事」、そこからはあなたの受持」といつた氣分も感じられます。これは利己的といふより「自分の職業を専心守る」といふ意識が自然そうした形で表れると考へた方がいゝのでせうね。この頃もあの頃も變りのない事は何といつても世間に慣れない嬢さん方、惡氣はないのでせうが、いふへき挨拶をいはず、同僚、長上、園児の家庭に對しても何かにつけてこゝろが足りない事を感じます。とはいへ子供の取扱、保育の技倆等は進歩し

たと思ひます。

しかし、この頃の悩みは收容し切れない入園志望者、閉出しされてゐる幼児の事、そして最大限度に收容されて手が届きかねないかと思はれる園児の事、設備と保母の及ぶ限りともかく入れた。こんな時勢だから出来る丈入れた方がいゝのだらうと思つて入れた。保母の力には限りがある。

この頃の少い菓子の取扱の様は幼児の上には拂はれる注意の配給が園児の數に反比例して少くなつていゝものだらうか、十を抱いてこの惱を持つか、五を守る爲に餘の五を捨てるべきか……と……そして又十以外のいくらか願みられない状態にあるこの頃……

「おほみたから」の爲にこの頃、あの頃と思ひだしてこれから先を考へ乍ら

(十七、五、十)

歩きませう

附屬幼稚園

古澤 静子

歩く事は既に生後一ヶ年をこゝでその

要領を自得し、如何なる生活様式の人にと